



江戸川区の特産物を知っていますか

突然ですが、君たちは江戸川区の特産物を知っていますか。一番有名なのは本校の校名にもあるように、野菜の小松菜だと思います。それ以外にも金魚、江戸風鈴、切子、和傘、藍染めなどがあります。金魚や藍染めなどは、江戸川、荒川、中川と大きな川が3つも流れる、江戸川区だからこその特産物のように感じます。区内にいくつもの親水公園があるのも、昔たくさんの川があった名残だと思います。本日、そんな江戸川区を舞台にした教材を使って、「郷土愛」に関する道德の授業を行いました。

区内にある古川親水公園は、日本初の親水公園です。その元にもなった古川は、かつて行徳の塩田で作られた塩を、江戸に運ぶ水路でした。それが、私が生まれた頃の昭和30年代の後半になると、東京の都市化が進み、川に工場排水や生活排水が流れ込み、多くの川が悪臭を放つドブ川になってしまいました。

古川も同じで、初めは川を埋め立てて、その土地を再利用する計画でした。しかし、川を残してほしいという地元の人の強い要望によって、数々の困難を乗り越えた結果、昭和48年に古川は親水公園として生まれ変わります。当時の区長さんは、「良い環境と豊かな人間関係こそが、住民が安心して暮らすことができる、理想の地域社会の基盤である。」、という言葉を残しています。古川の歴史についてのレポートを書き終えた主人公は、以前より親水公園に対して、不思議と愛着を感じるようになります。以上が教材のあらすじです。

私は今千葉県船橋市に住んでいますが、家には船橋の歴史に関する本が何冊もあります。それらを読んで、「船橋という地名は、橋の代わりに船をつなげて川を渡ったことに由来する。」「江戸時代、千葉の成田の新勝寺を訪れるのが流行し、その際に最初に宿泊したのが船橋の宿だった。」「徳川家康が千葉に鷹狩りに行く際に、船橋の宿に泊まった。」「家康が船橋に滞在していた時に、船橋大神宮で町民が奉納相撲を行った。」などを知って、船橋の地名の発祥の地や、家康が泊まった宿の跡地などを、実際に訪れてみたいもしました。

教材の主人公のように、郷土について調べることによって、郷土に対して誇りや愛着を感じるようになります。そして、そんな郷土をよくしたいという気持ちが生まれます。そして、郷土に積極的に関わろうとするようになります。古川が親水公園として生まれ変わったのも、地元の人たちのそんな気持ちの表れだと思います。

旅行などから帰ってきて平井駅に着くと、ほっとした気持ちになったことがありますか。郷土とは離れてみて、初めてその大切さに気づく場所なのかもしれません。

また、そこに住んでいる人同士のよい人間関係が、郷土を愛する心を育みます。言葉や教育、医療など様々な問題があると思いますが、葛西に多くのインドの人や、北関東にたくさんのブラジルの人が住んでいるのも、その人たちの間に困った時に助け合うという、連帯感があるからだだと思います。第二の故郷とは、そんな場所のことを言うのだと思います。そして私にとって平井の街は、まさしく第二の故郷だと感じています。

昔まだ荒川に橋が架かっていなかった頃は、平井に渡し舟があったそうです。君たちも昔の平井に興味をもって、少しでも平井の街に愛着を感じてくれることを願っています。

来週の予定

27 日(月)	28 日(火)	29 日(水)	30 日(木)	12 月 1 日(金)
・小松川平井地区マラソン大会 ボランティア、参加申込〆切		・		・三者面談（始） ・6カット 45分授業 ・江戸川っ子 study week！（始）

校外学習についてのお願い

20日の月曜日に、生徒に校外学習のしおりを持ち帰るように伝えました。当日の時程、服装、持ち物、コース班活動費等を、保護者の方もしおりをご覧になって、必ずご確認ください。また、校外学習後にしおりの P11にある班行動費の確認をお願いします。併せて、確認後に保護者氏名の記入と押印をして、27日の月曜日に生徒に提出させるようにしてください。よろしくお願い申し上げます。

